

世界をみつめて、くらしをみつめて

学校所在府県：大阪府

学校名：吹田市立藤白台小学校

名前：永森美智子（全科）

実践教科：総合的な学習の時間

指導時数：5時間

対象学年：小学校6年生

対象人数：85人（3クラス）

1. 教師海外研修を通して感じたこと

自分には、知っているつもりで実はわかっていないことが多いのだと、思い知った10日間。

人が亡くなったあとのこと、やぎが解体される場所、障がい者のおかれている状況、豊かな自然や動物との共存など、日本で生活しては見えてこないものを知るきっかけとなった。見えなくなっているものを子どもたちにも伝えたいと思うと同時に、自分から知る努力をしようと思うようになったことが、本研修に参加して大きく変わったことである。

数あるプログラムのなかでも、障がい者自立支援センター（CIL カトマンズ）で出会ったインデュラさんのエピソードは衝撃だった。歩けなくなってからの学校生活では、教師も友だちも誰にも助けてもらえなかったというのだ。頼れるのは家族だけ。悲しかった過去を持ちながら、現在は人のために活動するインデュラさんをはじめ、仲間を集めて声をあげ、変革を起こしている方々から学ぶことが本当にたくさんあった。

また、ホームステイ先の人々から感じたのはあたたかな関わりあいだ。子どもたちが自然と他者を手助けするのは、たくさんの人に関わってもらい愛情を受けながら育てているからこそだと感じた。

子どもにとっての身近な大人として、あたたかな関わりを大切に続け、その輪を広げていくことも、この研修に参加した自分の役目なのだと思う。「心の豊かさを育むには」、これは私の今後の学びのテーマとなった。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

研修参加前から、子どもたちに遠い世界を身近に感じさせられるようにすること、外国文化に触れたり人とつながったりすることに憧れをもたせること、そして問題意識を持たせることをねらいとした授業を行いたいと考えていた。

近年の児童の実態として、何か思うことがあっても、誰かにしてもらうことを待っていたり表現できなかつたりするところがある。そこで、6年生も後半に差し掛かったところで「自分もみんなも〇〇な子も、安心して過ごせる藤白台小学校をつくろう」とのテーマを掲げ、最高学年として学校に何かを残していくのだという気持ちを高めていくこととした。（「〇〇な子」には、小学校にはどのような子がいるのかを考えさせるために空欄にしている。）本単元でも、ネパールをきっかけに見えてきた身近な課題について「自分から仲間と一緒にアクションを起こす」体験をしてほしいと願っている。

まずは本研修を通して自分が特に学んだ「知らなかったことに目を向ける」体験を子どもたちにもさせたいと考えた。実際にネパールで出会った人々の紹介や、撮ってきた写真・動画を活用して、教師を通して具体性のあるネパールとの出会いの場を作ることとした。授業を通してネパールが抱える課題を知ることにもなるが、それらは遠くの国の無関係な出来事ではなく、日本にも関係のある出来事なのだと、問題意識をもたせていきたい。

(2) 授業の構成

【出発前】

| 時限・テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|---|---|--|
| 1 時限目 JICA ってなに？ * 世界が抱える課題と、解決のために取り組む人々の存在を知る。 | <ul style="list-style-type: none">● 「世界がもし100人の村だったら」を読む。● 動画を視聴する。● ネパールの基本情報を知る。● ネパールの子どもたちと交流したいことや知りたいことを考える。 | <ul style="list-style-type: none">● 「世界がもし100人の村だったら」（スライド）● 動画「もっと知ろう世界のこと～JICAは世界とともに～」 |

【教師海外研修後】

| 時限・テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|--|---|--|
| 1 時限目 ネパールの良いところを見つけよう *ネパールの文化や生活の工夫を知り、ネパールの良さを見つける。 | <ul style="list-style-type: none"> ●日本のいいところを考える。 ●ネパールの概要を知る。 ●「ネパールの暮らし」をテーマに写真を見て、そこからわかることを書きだし、発表する。 ●ネパール大地震のことを知る。 ●ネパールミルクティーを試飲する。 ●ネパールの良さ感想をまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●世界地図 ●ネパール地図 ●ワークシート 1 |
| 2 時限目 ネパールで暮らす人のことをもっと深く知ろう *ネパールが抱える課題や、様々な価値観の人がいることを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ●写真のスライドを順番に見て、そこから考えられることを書き出す。 ●意見を交流し、「〇〇な人もいる」との表現でまとめる。 ●障がい者自立支援センター（CIL カトマンズ）でのインデュラさんとの出会いとエピソードを聞く。 ●本時の学習を振り返り、感想をまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●写真（スライド） ●ネパールから持ち帰った小物 ●ワークシート 2 |
| 3・4 時限目 身近なバリアを見つけよう *ネパールの抱える課題を、身近なこととして捉えて探す。 | <ul style="list-style-type: none"> ●前時の授業を振り返り、生活の中で困っている人は日本にもいることに気付く。 ●自分以外の立場の人の目線で校内を見てまわり、生活のバリアとなるものを見つける。 ●見つけたことを校内地図に記入する。 ●見つけたことについて、解決策を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ●ワークシート 3 ●校内地図（大・小） |
| 5 時限目 自分にもできることは、何だろう？ *ネパールで活動している協力隊員や団体を参考に、自分にもできることを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ●前時にまとめた解決策のなかから、取り組みそうなこととそうでないことを班で話し合う。 ●今単元での学習を振り返る。 ●ネパールでの青年海外協力隊の活動の様子を視聴する。 ●CIL カトマンズでの、車いす作りや社会の見方を変えていこうとする取り組みを知る。 ●今の自分にもできることを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ●スライド ●動画 ●ワークシート 4 |

3. 授業の詳細

出発前：JICA ってなに？

ねらい…世界が抱える課題と、解決のために取り組む人々の存在を知る。

◆内容◆

- ①「世界がもし 100 人の村だったら」を読む。
- ②動画「もっと知ろう世界のこと～ JICA は世界とともに～」を視聴する。
- ③教師海外研修を知り、ネパールの基本情報を知る。
- ④ネパールの子どもたちと交流したいことや知りたいことを考える。

児童の反応

▶ネパールの人に聞いてきてほしいことや、文化交流として持って行ってほしい物のアイデアがたくさん寄せられた。



子どもたちが作った写真額

◆所感◆ 開発途上国など、世界の現状と課題については知っている子と知らない子が半分ずつ程度であった。あまりなじみのない話題であったため、驚きというよりも「そうなんや。」と知識が増えたといった反応であった。「世界の課題を自分事として捉えるには、どうすればよいのか」を考えていきたいと思った。

ネパールの子どもたちと交流できることをとても喜んでおり、たくさんのアイデアが集まった。その結果、日本の写真を2つの台紙に張って折り紙で飾り、ネパールの子どもが折ったものでさらに飾り付けをして、1つはプレゼントし1つは日本に持ち帰ることにした。また、ネパールの子どもに鶴を折ってもらい、秋の修学旅行で千羽鶴にまぜて広島へ届けることにした。

1 時限目：ネパールの良いところを見つけよう

ねらい…ネパールの文化や生活の工夫を知り、
ネパールの良さを見つける。

◆内容◆

- ① 日本のいいところを聞かれたら、何と答えるかを考える。
- ② ネパールの概要を知る。
- ③ 「ネパールの暮らし」をテーマに写真を見て、そこからわかることを書きだし、発表する。
 - ・「交通の様子」
 - ・「民族衣装と民族の多様性」
 - ・「ホームステイ先の『自家製の食べ物』」
 - ・「暮らしの中のエコ」
- ④ ネパールの子どもに尋ねてきた「日本の印象」「ネパールの良いところ」の答えを聞き、ネパール大地震のことを知る。
 - ・日本の印象…地震と海
 - ・ネパールの良いところ…ヒマラヤ・森・やさしい動物たち
- ⑤ 訪問先でのおもてなしを紹介し、ネパールミルクティーを試飲する。
- ⑥ 本時の学習を振り返り、みつけたネパールの良さと感想をまとめる。

！ココがポイント

出発前に頼まれていた「日本の印象は?」「ネパールの良いところは?」とのインタビューの答えを取り上げた。身近に捉えてもらえるよう、ステイ先で知り合った6年生と同一年の少年の回答を紹介した。

児童の感想

- ▶ 写真からだけれど、ネパールの人たちの温かさが伝わってきました。
- ▶ ネパールの人にもっと日本を知ってほしいし、ネパールのことももっと知りたいと思いました。
- ▶ ネパールにはエコがたくさんあることを知った。とうもろこしの芯を薪に使うのは良いと思いました。
- ▶ 動物とたくさんふれあっているところが日本とは違うと思いました。



ネパールの交通の様子



ステイ先のタマンさんの家で
育てているもの



トウモロコシの芯を
薪の代わりに燃やす様子

◆所感◆ 5年生のときにも外国の文化を紹介する授業をしていたため、今回の授業をとっても楽しみにしていた児童も多かった。導入で「日本の良いところを聞かれたら、何と答えるか」との質問を投げかけることで、「ネパールの良さは何だろうか」と探しながら授業に参加させるようにした。

発展途上国について少し知識のある児童に対して、ネパールの暮らしの中に入り込むような出会いをさせたいと思っていた。そのため、実際に出会った人・泊まった家・食べた物・見たものを紹介したことで、先入観にとらわれずに受け止めてもらえることができた。ネパールの子どもが日本の印象を地震と答えたことについてはとても驚いており、ネパール震災の被害の深刻さにはショックを受けた様であった。

2時限目：ネパールで暮らす人のことをもっと深く知ろう

ねらい…ネパールが抱える課題や、様々な価値観の人がいることを知る。

◆内容◆

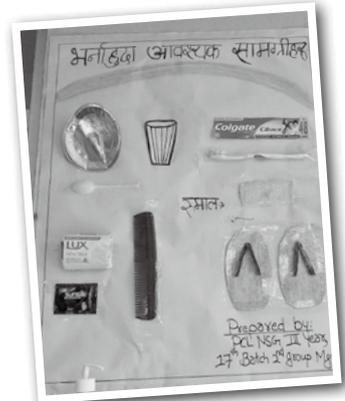
- ① 写真のスライド a～d を順番に見て、そこから考えられることを書きだす。
- ② 意見を交流し、「〇〇な人もいる」との表現でまとめる。
 - (a) 「ごみが捨てられている山道」
(コンポストの取り組みについても知る。)
 - (b) 露店をだす母と子ども
 - (c) 病院の小児病棟でのポスター
 - (d) 商店街のでこぼこの道
- ③ 障がい者自立支援センター（CIL カトマंडウ）でのインデュラさんとの出会いとエピソードを聞く。
- ④ 本時の学習を振り返り、感想をまとめる。



(a)ごみが捨てられている山道



(b)露店をだす母と子ども



(c)病院の小児病棟でのポスター



(d)商店街のでこぼこの道

児童の反応

(写真ごとのまとめ)

- (a) ポイ捨てをする人もいる。
少しでもごみを減らそうとする人もいる。
- (b) 貧しい人もいる。/ 学校に行けない人もいる。
- (c) 自分の国の言葉を読めない人もいる。
- (d) 歩きづらくて困っている人もいる / 直したいけれど直せなくて困っている人もいる

児童の感想

(ワークシートより)

- ▶ ネパールは動物と仲良く過ごしていて自然豊かな国だと思っていたけれど、苦勞していることもたくさんあるのだと思いました。
- ▶ 小学校に行っていない人もいるのだと思ったら、とてもかわいそう。そのために何かできることはないか考えてみたい。
- ▶ 日本でもポイ捨てをする人もいるから、それは世界中で直していきたい。
- ▶ 日本では当たり前のことのできない人もいると知り、びっくりした。でも、日本にもそういう人がいるから、他人事ではないと思った。
- ▶ 日本にも助け合う人が全員ではない。「そんなの一人でできるだろう」と思っている人もいる。ネパールも一緒なのかなと思った。でも、日本の方がバリアフリーなどを考える人が多いと思った。

！ココがポイント

前時にはネパールの明るい面を見せていたが、今回は対照的な面を見せるようにした。しかし、課題となる部分と併せて、課題に対して取り組む人たちが紹介することで、ネパールで暮らす人全員が同じ価値観ではないことが伝わるように配慮した。

◆所感◆ 前時にネパールにいい印象を持って終わっただけに、今回の内容にはショックを受ける児童もいるだろうと想定しながら授業を組み立てた。写真ごとに気づきを交流したあとに「〇〇な人もいる。」という表現でまとめさせたのは、前時に見た人々や文化のイメージを覆すのではなく、「人に優しい人もいれば、障がい者に厳しい人もいる」「ポイ捨てをする人もいれば、注意する人もいる」「道がでこぼこで困っている人もいる」「文字が読めない人もいる」等、そこで暮らす人と価値観に注目してほしいと思ったからである。

児童の感想のなかにも、国が抱える問題もありながら、人によって考えが異なることに注目している内容や、ネパールと日本の共通点に気付く内容がみられた。中でも、「自分ならどう働きかけるか」「車いすを増やすために寄付はできないのか」など、どうにかできないのかとの思いを持った児童もいた。この授業での児童の気づきと問題意識を、今後の展開につなげていきたいと思った。

3・4時限目：身近なバリアを見つけよう

ねらい…ネパールの抱える課題を、身近なこととして捉えて探す。

◆内容◆

- ① 前時の授業を振り返り、生活の中で困っている人は日本にもいることに気付く。
- ② 自分以外の立場の人の目線で校内を見てまわり、生活のバリアとなるものを見つける。
見つけたことを校内地図に記入する。
- ③ 見つけたことについて、解決策を考える。

！ココがポイント

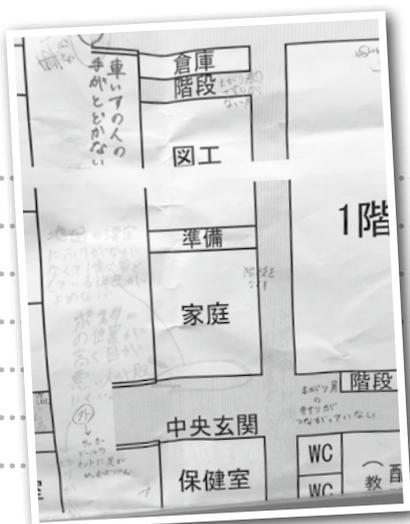
2学期の初めに「学校にいる〇〇な子」をたくさん考えたことを想起させ、様々な立場にたって校内を見て来るよう促した。

児童の感想

- ▶ 自分はこの学校に慣れているから、普段はふつうに使っているところも、見返してみると意外と不便で発見があるんだと思った。
- ▶ 校内を歩いていると日本語でしか書いていないものが多かった。外国語で書いてあっても字が読めない子にはわからないので♪など各教室にマークがあればいいと思った。
- ▶ 自分でできることはやってみたい。

児童の反応

- ▶ 車いすの人、力の弱い人、目の見えない人の目線になって探す児童が多くみられ、トイレの手すりの有無や段差、水道の蛇口の形など多くの気づきがあった。そのほかには日本語でしか表記されていない案内板や、読み仮名のふられていない漢字の看板など、外国籍児童・低学年の目線になる児童もいた。また3時限目の後に大阪市内へ校外学習行った際には、街中のバリアを探す児童もいた。



見つけたことを書きこんだ校内地図

◆所感◆ この単位と同時期に、道徳の時間に障がい者理解教育として車いすや発達障害についての絵本を読んでいたこともあり、車いすの人の目線で校内を調べた児童が多かった。こちらが予想していた以上に真剣に取り組み、多くのことを見つけてきたため驚いた。自分とは違った立場の人の存在を知り、見つめる視点を知るだけでこんなにも視野は広がるのかと、教える側として学ぶことも多かった。

5時限目：自分にもできることは、何だろう？

ねらい…ネパールでの青年海外協力隊員やNPOの活動を知り、自分にできることを考える。

◆内容◆

- ① 前時にまとめた解決策のなかから、自分たちにも取り組めそうなこととそうでないことを班で話し合って分け、その理由も考える。
- ② 2時限目での児童の振り返りの一部「日本もネパールも一緒なのかなと思った。」との意見を取り上げ、お互いに良さも課題もあれば、様々な価値観の人もいるとの、今単元での学習を振り返る。
- ③ ネパールでの青年海外協力隊の活動の様子を映像で見る。
- ④ CIL カトマンズでの、車いす作りや社会の見方を変えていこうとする取り組みを知る。
- ⑤ 今の自分にもできると思うこと、もしくは大人になってからでもやってみたいと思うことを考える。

！ココがポイント

ネパールの国を知ることから身近な環境・人を見つめる流れにしてきたため、最後に再び世界に目を向けることとした。様々な価値観の人がいるなかで、自分ならどうしていくかを考えさせたかった。

児童の感想

- ▶ 大きなことはできないけれど、よびかけるなどの小さなことは自分にもできることだと思いました。
- ▶ 何か困っている人がいたら助ける。たくさんの人に優しく接すれば、みんなの心があたたかくなるはず。2学期の総合ではたくさんの国や人の気持ちを考えながら活動することが多かった。難しいことだけど、とても大事なことだと思います。たくさんの色んな人がぐらしやすい世の中になったらいいです。

◆所感◆ これまで様々な立場の人がいることを学んできたことで、「今後、自分はどうありたいか」との発問は、自分の生き方・振る舞いをどうしたいかを考えるきっかけとなった。「国によって生活スタイルが全く違うけれど、どの国も暮らしやすくなってほしい」との感想もあり、自分もみんなもよりよくなればいいとの願いやイメージを抱かせることができたと思う。

4. 成果

2学期の始業式に「先生ネパール行ってきたん？」と興味津々で聞いてきた子どもたちにとって、ネパールの文化にとどまらず、課題を知り、身の回りに置き換えて考えることまでをすることは、思ってもみなかったと思う。しかしながら、外国への関心が大きかっただけに、より深く受け止め理解しようとしていたように感じられる。校内のバリア探しでは、見る視点さえ教えればどんどん視野が広がっていくところに、子どもたちの素直さを感じることもできた。一つの国の中に多様な価値観の人が暮らす様子を見つめることで、日本の自分達の暮らしも同じ視点で見つめ、客観的に見ることでできた。

本単元では解決策を考えたが、3学期には「卒業に向けて学校に何を残すか」との取り組みのなかで、行動へとつなげたい。また、小学生ながらも「自分はどう生きていくのか」を問いかけていきたい。

5. 課題

ネパールを見つめることで、自国を見つめさせることにつなげたが、「国際協力」というところにはそこまで向かわせることができなかった。また、児童の振り返りのなかで、国自体にお金がないことへの気付きがあったが、詳しく取り上げることができなかった。3学期の教科学習と連携して、世の中の不平等についても取り上げ、ディスカッションしていきたい。

また、今後も世界とつながりを感じながら、自分や社会を見つめていけるような開発教育を研究し、筋道をたてた授業実践を重ねていきたい。

参考資料 ・ 参考文献

「世界がもし100人の村だったら」池田香代子 マガジンハウス 2001年

・ 参考ホームページURL

「JICA 地球ひろば」 <https://www.jica.go.jp/hiroba/>